



第21号

町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～
【中央へ地元の思いを伝える・・・】

よく町民の方々から「町長さん忙しいでしょ」と声をかけられることがあります。

私が職員時代に見てきた町長の職務は、休みも少なく出張も多くハードなもので気力と体力がなければ勤まらない職だと感じておりましたが、自分がその職について、改めてそれを体感しております。

就任以来、町長の仕事の内容が少しでも町民の皆様には伝わればという思いで、このページを書かせていただいております。

今月は、町長の職務の中で国や道へ地元の声を届けるために行っている陳情や要望活動を中心にお話をさせていただきます。ここ数年イカ漁の不振が続き、特に昨年は記録的な不振となり、漁師はもとより水産加工業も大変厳しい状況にあります。

このようなことから松前町の石山町長と連携し、両町合同で六月六

日（火）に、国及び道南選出の国会議員の方々に「スルメ加工原料の安定確保」に関する要望をしまいにしました。

なお、要請活動には、松前町・福島町スルメ加工業連絡協議会のカネキン高松水産の高松専務と地元の大久吉田水産の吉田社長とご子息も同行し、地元の切実な声を直接聞いていただきました。

当日は、国会開会中のこともあり、あいにく山本農林水産大臣は不在でしたが、磯崎農林副大臣、佐藤水産庁長官とお会いすることができ、直接要望してまいりました。懇談の中で、ここ数年のイカ漁の不漁により危機的な状況にある両町の水産加工業の現状を説明し、イカの輸入枠の追加拡大や中国船などによる日本海海域での違反操業の取り締まりの強化を要請いたしました。

磯崎副大臣からは、「不漁による加工業者の被害

が出ないよう対策を講じる努力をする」との回答をいただきました。

また、地元選出の国会議員の前田衆議院議員及び逢坂衆議院議員並びに横山参議院議員へも要望するとともに、今後の支援をお願いいたしました。

六月二十七日（火）に、渡島総合開発期成会で道及び北海道開発局などの関係機関に対する要望を實施いたしました。

当日は、高橋はるみ知事をはじめ関係部長へ要望書を提出し、また、管内選出の北海道議会議員へも要望を行っております。

期成会では、例年、札幌要望と、国などへの中央要望活動を行っており、要望の内容は、交通ネットワークの形成として、一、北海道新幹線の建設促進、一、北海道縦貫自動車道の整備促進、一、幹線道路網等の整備促進などで、松前半島道路の早期整備に関しても

しております。

最近では、町単独での国などへの要望活動を行っておりませんでした。今回、松前町との合同での要望活動は、地域の声を国などの中央へ届けることができ、大変意義深いものがあつたと感じております。

平成二十七年ノーベル生理学・医学賞を受賞され、現北里大学特別荣誉教授の大村智さんは、子供の頃、祖母から「世の中で一番大切なことは、人のためになることだ」と繰り返し、繰り返し言い聞かされて育つたと言っております。

また、その大村さんが臨済宗僧侶の松原泰道先生が百一歳の時にいただいた言葉に「よき人生は日々の丹精にある」とあります。大変重みのある言葉ですが、私たちも日々努力を重ねて、よりよきまちづくりの道を歩みたいものです。